

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	自然言語処理論		
英文授業科目名	Language and Linguistic Information Processing		
開講年度	2005年度	開講年次	3年次
開講学期	6学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	情報工学科		
担当教官名	小嶋 秀樹		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
kozima.hideki@gmail.com	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>主題：インターネットの普及にともない，たとえば情報検索・要約・翻訳といった「自然言語処理」に必要性が高まっています．この授業では，コンピュータで自然言語（日本語・英語など）テキストを自動処理するために必要となる言語学的知識と主な処理手法について，その基礎を学びます．（音声情報処理および文字画像処理については扱いません）</p> <p>達成目標：(1) 自然言語について言語学的知識の基礎，(2) 形態素処理・構文処理・意味処理・文脈処理・対話処理などについての基礎，(3) 情報検索・要約・翻訳・コーパス処理などの技術現状について習得します．</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>プログラミング言語（C, Pascal, Lisp のいずれか）の簡単な読み書きができること．</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>とくになし．</p>

<p>【教科書等】</p> <p>教科書 必須の教科書はなし．</p> <p>参考書 長尾真編：自然言語処理，岩波書店，1996．</p>
--

電気通信大学 平成17年度シラバス

【授業内容とその進め方】

この授業（全12回）では、まず自然言語処理の歴史と現状について説明し、つぎに言語学的な背景知識を学ぶことから始めます。その後、形態素・構文・意味・文脈・対話といった処理レベルごとに、その基本的な処理手法について学びます。最後に、情報検索・要約・翻訳・コーパス処理といったテキスト処理の「現場」について概観します。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：期末試験としてプログラミングプロジェクトあるいはレポートを課します。テーマは授業のなかで指定します。

評価基準：自然言語処理の基本を理解していれば合格。

【オフィスアワー：授業相談】

授業の直後に捕まえるか、もしくは電子メール（kozima.hideki@gmail.com）で質問等を受け付けます。

【学生へのメッセージ】

言語はヒト特有の伝達手段であり、そのコンピュータ処理は社会活動を支えるインフラになります。この授業を足がかりとして、認知科学・コミュニケーション理論・外国語などに興味をもっていただければと思います。

【その他】